表1　　震災後の4つの不足

場　所	動き回れる場　遊び場　子を預けられる場所　女性のプライバシーが守られる場 家族ごとの個室　パニック時のクールダウンスペース パーティーションで区切った場所　福祉避難所　トイレ　入浴の場所など
情　報	いつ電気がつくか　水のボトルはいつ来るのか　食事は今日何回配られるのか どこに行けば子どものことが分かる専門家がいる？　家には戻れるのか 開いているスーパーはある？　家族の安否　正しい情報など
物　資	薬　オムツ　暖をとれるもの　ウェットティッシュ　食べ物　マンガ 電池不要のゲーム　ろうそく　ガソリンなど
理　解	保護者のケア　保護者との相談　アドバイスしてくれる人　気を使わない理解者 慣れている人　発達障がいへの誤解に傷つく　子どもについて気がね 怒鳴られたなど

表2　支援者の年代

	度数	パーセント
20 代	9	10.3
30 代	14	16.1
40 代	28	32.2
50 代以上	33	37.9
不明	3	3.4
合計	87	100.0

表3　　保護者の年代

	度数	パーセント
20 代	3	3.8
30 代	15	18.8
40 代	38	47.5
50 代	19	23.8
不明	5	6.3
合計	80	100.0

表4　子どもの人数

	度数	パーセント
1 人	9	11.30
2 人	48	60.00
3 人	14	17.50
4 人以上	7	8.80
不明	2	2.50
合計	80	100.00

表5　震災後のストレス(4 つの不足)　保護者データ

	平均	SD	α係数 (項目数)
場　所	3.322	1.314	0.858　(3)
情　報	3.080	0.778	0.754　(7)
物　資	2.467	0.930	0.791　(6)
理　解	3.092	1.053	0.919　(8)
震災時ストレス	2.890	0.715	0.901

表6　　4つの不足の項目ごとの平均と「あてはまる」の割合　保護者データ

	項目内容	平均値	標準偏差	4と5の%
場　所	②　3･14 直後、一次避難所に行くことに抵抗があった。	2.93	1.541	38.9
	③　一時避難所は、自分たち家族には安心していられる場所ではないと思った。	3.39	1.563	51.4
	⑥　避難所で他者と生活することは自分たち家族には難しいと思った。	3.67	1.355	58.9
情　報	①　情報をどのように手に入れるかということに苦労した。	4.01	1.137	76.3
	③　情報が多すぎて困った。	2.22	1.131	10.4
	④　どの情報が正確であるか分からず困った。	3.22	1.250	38.1
	⑤　テレビの放映を見続けることが負担だった。	2.71	1.282	24.0
	⑥　情報がないと不安でしかたなかった。	3.83	1.201	66.7
	⑦　いろいろ情報が入ってくるのが怖かった。	2.85	1.341	29.8
	⑨　子どものいつもと違う様子に対してどうしたらいいかに関する情報がほしかった。	2.76	1.248	24.3
物資	②　必要な物資が届かず困ることが多かった。	3.01	1.225	34.6
	④　配給をもらうのに長い時間待たないといけないことがよくあった。	2.61	1.407	25.2
	⑤　これまで制限していたお菓子や添加物の入った食べ物が配給されて悩むことがあった。	1.90	1.059	5.7
	⑥　衣類の配給が不足していた。	2.51	1.319	23.9
	⑦　こだわりがあり、せっかく配給されたものも使えないことがあった。	2.03	1.200	10.1
	⑧　あいている時間に子どもが一人で遊べるようなものがほしかった。	2.64	1.475	24.6
理解	①　障がいについて理解している人が近くにいてほしかった。	3.28	1.429	48.3

	② 障がいについて、もっと社会の中で理解が進むことが必要だと感じた。	3.83	1.302	66.3
	③ どこにいけば、子どもや自分たち家族に支援をしてもらえるかがわからなかった。	3.33	1.411	50.0
	④ 支援者がいても、どのようなことを頼んでいいのか分らなかった。	3.07	1.358	37.9
	⑤ 支援者がいても、自分がほしいアドバイスをもらうことはできなかった。	2.49	1.048	7.7
	⑥ いつもと違う様子の子どもについてどうしたらいいかを支援してほしかった。	2.55	1.184	14.9
	⑦ 子どもの問題について知識を持っている人に支援をしてもらいたかった。	2.95	1.363	34.2
	⑩ 保護者を「ひとやすみ」させてもらえるような支援がほしかった。	2.77	1.258	26.6